

1. 「持続可能な地域づくり」を目指しましょう

本章では、「持続可能な地域づくり」がどのようなものを目指しているかを考えてみましょう。

「持続可能な地域づくり」には二つの側面があります。一つは、環境への負荷が少ない地域づくりです。地域が環境に配慮することで、環境が持続可能な地域をつくっていくことを目指します。もう一つは、主体的で継続的な地域づくりです。地域自らが主体となった取組を継続的に行うことで、持続可能な地域をつくっていくことを目指します。

「持続可能な地域づくり」では、この二つの両立を目指していきます。地域によって、その取り組む道筋はいろいろありますが、目指している方向は一つになります。

● 「持続可能な地域づくり」 持続可能な地域での取組
が求められています

➡ 地域自らが主体となって取り組むことが重要です

地域住民を中心とした様々な主体が主役となった、地域での取組への参加が求められています。

- 地域には、地域独自の資源があります。その地域にしかない人材も重要な資源です
- 地域が独自の取組を進めていくためには、地域自らが主体的となった取組を進める必要があります
- 行政だけでなく、住民・事業者や民間団体が主役となって、取組を進めていくことを目指します

➡ 特に、環境配慮については、地域での取組の積み重ねが重要です

これまで、環境配慮といえば、発生した問題に対する取組のイメージがありました。しかし、今日では、問題の多様化によって、解決することだけが取組ではなくなってきました。

- 環境配慮に対する取組は多様化しており、単なる問題の解決だけではカバーしきれません
- 地域で行動を起こすことからはじめ、その積み重ねが地球規模の問題にも結びついていきます

今後、持続可能な社会というものを考え、創りあげていくにあたっては、ますます地域の役割が大きくなります。

「地域づくり」と環境を配慮した取組との関係については、国の環境基本計画（「環境基本計画 環境の世紀への道しるべ」平成12年12月22日閣議決定）でもその必要性がいられています。

具体的には、環境の観点から持続可能性を目指す視点を各主体が共有しながら施策の推進を行うことで、地域づくりのあらゆる場面において環境配慮の織り込みを進めていくということです。

国の環境基本計画（「環境基本計画 環境の世紀への道しるべ」）では、『あらゆる段階における取組に係る戦略的プログラム』の一つとして、**地域づくりにおける取組の推進**がうたわれています。

ここでは、『循環』と『共生』を基調とした地域づくりの展開に際し、関係する各主体が、環境の観点から持続可能性を目指す視点を共有し、地域づくりに関するそれぞれの施策を推進することによって、地域づくりのあらゆる場面において環境配慮の織り込みを進めることを基本とすることが記されています（第3部第1章第10節）。

● 「持続可能な地域づくり」には二つの側面があります

➡ 環境への負荷が少なく、自然と人間との共生が確保された地域づくり

環境への負荷ができる限り少なく循環を基調とし、環境の特性に配慮しながら、自然と人間との共生が確保された地域づくりを進めていくことです。

- 「環境」とは、人類を含んだ地球上すべての生物の存続基盤をさします
- 環境配慮を取り入れた地域での取組を進めていくことで、環境が持続可能な地域をつくります

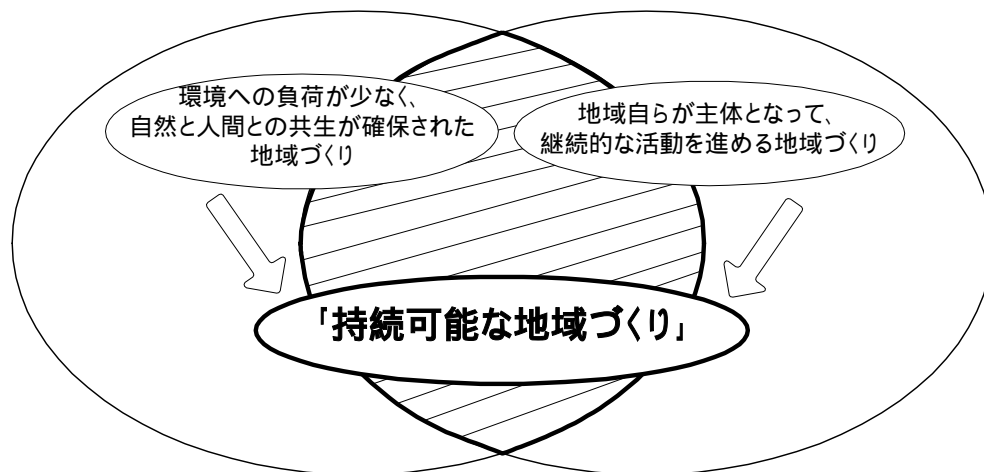
➡ 地域自らが主体となって、継続的な活動を進める地域づくり

地域のあらゆる主体が、自ら積極的に取組に関わり、自立した活動を継続的に行っていくような地域づくりを進めていくことです。

- 地域では、環境だけでなく歴史・文化、人材なども重要な資源です
- 地域の資源を十分に活用し、地域での取組が継続的に行われていくことを、地域が持続可能であると考えます

● 「持続可能な地域づくり」を目指すことは、これら二つの側面を統合させることです

「持続可能な地域づくり」を進めるにあたっては、この二つの側面の統合を目指していきます。実際の取組には、どちらか一方にとどまっているかもしれませんが、徐々に進んでいくうちに統合する方向へ近づいていくというイメージです。



● 「持続可能な地域づくり」が目指している方向は一つですが、その入口や道筋には、無数の組み合わせがあります

「持続可能な地域づくり」が最終的に目指している方向は、ゆくゆくは一つの方向性にまとまっていくものです。しかし、そのための入口となるテーマ（きっかけ）や取り組む過程は地域によって異なりますし、その組み合わせは無数にあるでしょう。

取組を進めていくなかで、さまざまな拡がり考えることができます。例えば、異なるテーマへの展開、取組となる主体の拡大などがあります。しかし、その道筋はいろいろありますが、どの道筋を進んでも「持続可能な地域」に向かっていきます。

「持続可能な地域づくり」が目指しているイメージ

